

鳥取駅大型書店誘致計画総合レポート2014

The report about a plan to invite a large-sized bookstore to Tottori Station

「未来をぼくらの手で」鳥取本部

グループリーダー

富井篤弥 Atsuya Tomii

「未来をぼくらの手で」つくば支部

支部長及びポリシーマネージャー

椎名健 Takeru Shiina

鳥取駅大型書店誘致計画総合レポート

目的

鳥取市は鳥取県の県庁所在地であるにも関わらず、大手書店が進出していない。その理由として、大手書店の出店基準の人口三十万人以内の都市であることや、地理的要因が挙げられる。しかし情報社会の中で出版物が満足に購入できる書店がないことはそこに住む人々にとって、不利な状況をつくる原因となりかねない。この総合レポートでは地方における書店の重要性を調査し述べていくとともに、鳥取駅周辺の大規模書店誘致の重要性、必要性をあらゆる角度から指摘し、誘致までの流れを論じていく。

アウトライン(目次)

第一章、書店を欲する人の声

第二章、まんが王国とっとりについて

第三章、書店とネット書店

第四章、図書館と書店

第五章、書店と商店街・鳥取駅周辺の本屋と書店

第六章、デジタルデバイスについて

第七章、書店会社について

終章、鳥取駅周辺の大規模書店誘致について

おわりに

第一章、書店を欲する人々の声

ここでは鳥取市に書店を欲する人々のメッセージを記録している。

アウトライン

1 インターネットにおける鳥取市に書店を欲する人々の声

2 書店を欲する周りの人々の声

3 まとめ

1 インターネットにおける鳥取市に書店を欲する人々の声

2002年9月24日

2chより

17, 8年くらい前に紀伊国屋書店ができるという話があった。
が、地元の本屋が反対して白紙になった。

2009年4月18日

質問サイト「OK Wave」より

Q 鳥取市内でプログラミングの本が置いてある所は？

A 今井書店、一時に比べ、冊数が圧倒的に減っている。→不便になっている。

平成24年7月5日木曜

鳥取環境大学

第一回街カフェ議事より

学生が「ちゃんとした本屋が欲しい。」と述べている

2 書店を欲する周りの人々の声

駅付近に本屋欲しい。

駅近くに本屋がないと不便。

参考書を買おうと思い本屋を回ったが、小さい本屋ばかりで見つからなかった。

吉成まで行かないと本屋がないのは苦。

県庁所在地なのに大手の書店がないって…。

(大学生)

3 まとめ

多くの人々が昔から鳥取駅周辺に大型書店を要求しているが未だに実現していない。

また、近年は書店の電子化も進んでおり、書店を出店するタイミングを逃すと、

永遠に駅付近に大型書店が出店しないことになり、そのことによるデジタルデバイドの発生が懸念される。

(詳細は「デジタルデバイドについて」と「書店とネット書店」に於いて述べる。)

多くの人々の願望を実現できるよう、駅周辺の大型書店誘致に取り組む必要がある。

参考資料・文献

・2ちゃんねる

・質問サイト「OKWave」

・鳥取環境大学 ホームページ

第二章、まんが王国鳥取について

目的

鳥取県では「まんがをテーマとした地域づくり」を展開し、地域活性化を図ろうとしている。

内容

まんが文化を鳥取県から発信し、心豊かにサブカルチャーを楽しみ親しんでもらい、かつ鳥取県の魅力を皆さんに発信するため、「まんが王国とっとり」が建国された。また『水木しげるさん、谷ロジローさん、青山剛昌さんを始め、多くの著名な漫画家を輩出してきた鳥取県は「漫画」の魅力をさらに高め、鳥取自慢の「まんが文化」を世界に広めるべくまんが王国とつとりを建国した。』とも記されている。

「漫画とアニメにゆかりのある鳥取県を元気付けたい。」

活性化の4つのポイント。

- ・観光促進＝観光産業の収益をアップして鳥取の財政を豊かにし、市民を元気づける。
- ・産業・ビジネス＝漫画とアニメ産業、ビジネスを促進させ、活力ある経済基盤を鳥取に生み出す。
- ・コミュニケーション＝漫画、アニメの話題で、鳥取の住民のコミュニティの輪を広げ、人とのつながりを生む。
- ・誇り＝この様な鳥取県に住んでいることに誇りを感じ、住んで良かったと思える満足度の高い地域にする。

活動内容

- 1、国際マンガコンテスト(2014年は第三回)
- 2、「まんが王国・土佐」高知県との連帯
- 3、まんが王国とっとり国家戦略プロジェクト

- 1、募集作品のテーマから一般民から3部門(1コマ、4コマ、ストーリー)の漫画を募集し優れた漫画を描いたものに賞を送るというもの。
国際的な取り組みにすべく応募資格は国籍を問わない。

- 2、両王国の相互の立場を尊重し、事業の知名度や観光誘客につなげることを目的として互いに連携、協力することに合意した。
→観光

- 3、「まんが王国とっとり」を推進することを目的とし、漫画を核にそこから派生するサブカルチャーを幅広く活用して地域を盛り上げようとする団体、自治体の取り組みを支援するプロジェクト。

まんが・アニメ活用トライアル事業、「まんが王国とっとり」協働推進事業、「まんが王国とっとり」戦略プロジェクト事業からなる。

鳥取県民と漫画

鳥取県で読まれている漫画2,010～2013集計

- 1位モンキーターン 河合克敏さん静岡出身
 - 2位ジョジョの奇妙な冒険 荒木飛呂彦さん宮城県出身
 - 3位ワンピース 尾田栄一郎さん熊本県出身
 - 4位ハンターハンター 冨樫義博さん山形県出身
 - 5位JIN-仁- 村上もとかさん東京都出身
- 鳥取県出身の方はなし。

まんが王国とつとりの評価

- ・国際まんが博

税金10億円を国際まんが博に投入しながら人が来ない。

320万人の来場者数を見込む。結果は知事発表で60万人。

しかし、集計方法に問題があり国際まんが博内のブースに参加すると各ブースの担当者が1人カウントする。

つまり、一人が多くのブースを回ることで、何倍の来場者を出すことになる。

税金10億円の使途

名探偵コナンの巨大迷路、ゲゲゲの鬼太郎のお化け屋敷 5億円

自治体と民間団体の補助金 2億円

米子映画事変 3500万円

とっとりアニカルまつり 1200万円

資料展、イベント 500万円

ディズニーキャラクター著作権料 8000万円

国からの補助金 3億円

評価

- ・地域おこしのための支援とのことだが、特定の団体だけに毎年補助金が下りて、他の人間が支援されないのは地域おこしとはいえない。
- ・米子市出身のアニメ制作会社著名プロデューサーが、スティッチ起用にツイッターで批判した。
- ・嘘の来場者報告がマスコミやネットで非難が相次ぐ。

◎税金の無駄遣いとも言われ、このまんが博の開催がまんが王国ととりの評価を大きく下げる結果となった。

書店誘致とまんが王国とっとり

多くの漫画を販売するような場所が鳥取駅付近にないことから、

まんが王国とっとりとして、その機能を果たすためにも文化の発信地として駅付近に大型書店が必要である。

参考文献・資料

まんが王国とっとり 公式ホームページ

manga-tottori.jp

2ちゃんねる

NAVERまとめ

Wikipedia

zenkandokuha.com

第三章、書店とネット書店

定義

書店とは本の小売店や出版社、卸業者の事である。本屋とも言う。

分類

新書店・・・商店街に店を構える小規模店、駅前の百貨店やショッピングモールの内部に店を構える店がある。

古書店・・・古書を扱う本屋のこと。

コンビニ・・・出版物の2割はこのコンビニルートで販売される。

オンライン書店・・・インターネット上にある書店のこと。ネット書店ともいう。※このレポートではオンライン書店をネット書店で統一する。

ここでは、新書店とネット書店を比較対象とする。

アウトライン

- ・購入方法
- ・両者の違い
- ・消費者から見た両者の長所と短所
- ・販売者から見た両者の長所と短所
- ・+αネット書店について
- ・両者の共存
- ・鳥取駅付近の大型書店誘致の意味
- ・まとめ

購入方法

・新書店の出版物の購入方法

本を買うには、商店街や百貨店内、ショッピングモール内に出店してある書店に行き、書店内にて、購入したい本を探し、レジにて商品を買うことができる。

・ネット書店の出版物の購入方法

本を買うには、インターネットを立ち上げ、ネット書店のホームページにて、購入したい本のタイトル、著者、ISBN等を検索し、買う本を確定させてから住所や電話番号、メールアドレスなどの個人情報を入力し最後に、現金引換え・クレジットカード・銀行振り込みなどの手段で決算し購入する。

両者の違い

・欲しい本の検索の軸

書店

表紙で探す

ネット書店

キーワードで探す

・検索の方向性

書店

自分の関心を広げてゆく

(他の棚の本が見える)

ネット書店

自分の関心を深めていく

(検索結果の一覧)

・欲しい本の購買の心理

書店

自分の決断で買う。

ネット書店

他人の心理で買う場合もある。

(ロコミなど)

・購買後

書店

購入後直ぐ読める。

ネット書店

商品が配達されるまで待たなければならない。

消費者から見た両者の長所と短所

書店

長所

- ・新刊が中心
- ・大型店の品揃えのよさ
- ・衝動買い、関連買いが可能
- ・出版物の中身が読める場合がある
(購入するかしないかの判断材料)

(購入するかしないかの判断材料)

- ・書店特典
- ・思いがけない一冊との出会い。

短所

- ・書店までの移動時間
- ・重い本、大きい本の持ち帰りが面倒
- ・書店員の知識能力が低下傾向(アルバイト)
- ・衝動買い
- ・希望の本を探すのに時間がかかる

ネット書店

長所

- ・既刊本を含めて網羅的在庫
- ・インターネットが出来れば、いつでも購入できる
- ・情報が正確で早い
- ・口コミなどの評価を参照しながら購入することが出来る
- ・購入時間が少ない
- ・コンビニで受け取り可能
- ・安く販売されていることがある

短所

- ・購入後直ぐに読むことが出来ない
- ・物としての質感が分かりにくい
- ・インターネットを使える人しか購入できない
- ・書店特典がつかない
- ・出版物の中身が読めない

販売者から見た両者の長所と短所

書店

長所

- ・書店に来る全ての老若男女に出版物を販売することが出来る。
- ・商店街や、まちに書店を出店することによって地域に貢献できる。(『書店と商店街・鳥取駅周辺の本屋と書店』において詳しく述べる)

短所

- ・規模が大きければ大きいほど管理代、テナント代、土地代がかかる。
- ・売れない本は在庫として残ってしまう。
- ・レジ担当など人件費がかかってしまう。
- ・万引き、窃盗の危険がある。

ネット書店

長所

- ・対面での接客をしなくてよい。(人件費が安くなる)
- ・店舗がないので、それに関わるテナント代、土地代がかからずに済む。
- ・万引き、窃盗の危険がない。

- ・在庫を大量に抱えなくても出版社や卸売業者から取り寄せればよい。(在庫の土地代、管理費がかからずにする)
- ・注文された必要な分の出版物だけ印刷・製本することも出来るので、出版のコストダウンに繋げることも出来る。

短所

- ・インターネット設備がないお年寄りや子供、低所得層の方々に本を販売することが出来ない。
- ・コンピューターのシステムエラーなどによる、売買の不手際が起こる可能性がある。
- ・購入者の個人情報を厳重に管理しないと外に漏れる危険性がある。

＋α ネット書店について

目玉

インターネット通販で購入した商品・サービス

第一位が書籍雑誌の購入(57・8%)

ネット書店は2009年時点で71店舗。

上位7店で2000億円の売り上げ。

特徴

ネット書店の利用年代は20代が一位。

ネット書店の注文時間帯は21時～2時が多い。

ネット書店利用の最大の理由として、書店まで出向く必要がないこと、

署名や著名で本の検索が出来ることがアンケートで上げられた。

売り上げ

8492億円(出版物全体)2010年

因みに、書店は1兆4000億円(2010年)

両者の共存

ネット書店は消費者側、販売者側から見た書店の短所を補っている為に、

今後もさらに書店のネット化が進むと考えられる。

しかし、ネット書店と違い実物が見られる事や書店で買うことで付いてくる特典などから書店購入を支持する消費者も多く、

またネット書店では実現不可能な地域活性化の要素となりうる可能性を秘めていることから、書店は地域住民から

支持され、また両者の長所短所を考えての消費者の購買行動によって両者の共存は可能である。

鳥取駅付近の大型書店誘致の意味

鳥取駅付近では、2013年まであった今井書店鳥取駅前店が閉店し、現在、駅付近では大型書店がないのが現状である。

そのため、鳥取市街在住の消費者は、3キロ離れた今井書店に行くか、ネット書店での書籍の購入をしなければならず、

不便な状況である。また高齢社会という事もあり鳥取県のインターネット利用率は2011年の時点で63.2%とランキングで並べると35位と利用率が低いのが現状である。

このような事から、現在、鳥取駅付近に書店を構えれば消費者としても販売者としても利益があるといえる。

また、書店を構えることにより情報発信の場となることが出来るので、都市部とのデジタルデバイドの解消にもつながる。

まとめ

・ネット書店は書店の短所を補うことが出来るため、これからも進出すると考えられる。

・ネット普及率が低い地域、高齢社会地域では書店を構える必要性があるため、両者の共存は可能。

・鳥取駅付近に新たな書店を出店することは、消費者・販売者にとって大きな利益となる。

・書店が地域活性化の要素となりうる事を明確に示さなければならない。

(書店と商店街に於いて詳しく論ずる。)

参考文献・資料

・名古屋市立大学森田ゼミパワーポイント資料

・Wikipedia

・todo-ran.com

・日経BP社ホームページ

・日本著者販促センターホームページ

第四章、図書館と書店

定義

・図書館

図書、雑誌、視聴覚資料、点字資料、録音資料などメディアや情報資料を収集、保管し、利用者への提供等を行う施設もしくは機関である。

・書店

書店とは本の小売店や出版社、卸業者の事である。本屋とも言う。

目的

ここでは図書館と書店を比較する。

アウトライン

・図書館(日本)

・図書館(外国)

・両者の違い

・両者の長所と短所

・両者を結合した例(武雄市)

・両者の共存

・まとめ

図書館(日本)

機能

図書館には6つの機能がある。

1 図書館資料の収集

図書、新聞、雑誌を始めとしCD等のマルチメディアの収集を行う。

資料価値のあるものを保存し、なくなったものは廃棄する。

2 図書館資料の整理

収集された資料は各図書館の分類法により分類番号等をつけ利用されやすいように整理する。

3 図書館資料の保存

各種資料はその材質に応じて適切に保存する必要がある。また劣化に対応して、補修を行ったり、貴重な資料に対しては電子などで複製の作成を行ったりする。

4 図書館資料の提供

図書館の最大業務は資料・情報提供である。図書館資料の貸し出し、レファレンスサービス、レフェラルサービス、朗読サービス、複写サービス、アウトリーチサービスなどを提供する。また司書などによる情報検索サービスも行っている。

5 集会活動、行事の実施

図書館利用の広報活動のこと

6 資料および図書館利用に関する指導

図書館の利用ガイダンスを行うこと

設置

公立図書館、日赤図書館が設置する私立図書館は図書館法により規定。

また大学図書館の設置は大学設置基準に規定され設置の義務がある。

また学校図書館の設置は学校図書館法に規定されており設置の義務がある。

設備

1 開架式図書館

2 閉架式図書館

1は室内に書架が並んでいる。

書架に並んでいる資料は利用者が自由に手にとって閲覧できる。

書架に並べきれない資料、貴重な資料は書庫に収納されている。

また、閲覧者はカウンターで資料を借りることも出来る。

2は書架が外部からの閲覧者に公開されていない図書館である。

規模

日本には2008年現在、私立の図書館を含め3126の図書館があり、3億7473万冊の蔵書を所蔵している。
大学図書館は1,660館であり3億896万冊の蔵書を所蔵している。
日本最大の図書館は国立国会図書館である

利用者数

全国の図書館の利用者数は2005年で延べ1億7061万人で人口100人当たり133人。
一人あたり年間1.3回図書館を利用していることになる。

人口百人あたりの図書館利用者数ランキング

1位東京都234.99人/100人

2位滋賀県173.43人

3位山梨県167.71人

4位奈良県161.78人

5位石川県160.37人

6位群馬県158.27人

7位宮城県157.62人

8位埼玉県155.60人

9位大阪府154.19人

10位山口県146.87人

因みに、鳥取県は

31位鳥取県104.05人

全国で一番図書館利用者数が少ないのは

47位和歌山県66.02人

文部科学省が2012年10月31日に公表した社会教育調査によれば、
図書館における国民一人当たりの貸し出し数は5.4冊と増加傾向にあると伝えている。

(前回2009年の統計では4.9冊、1995年の統計では3.2冊となっている)

また貸し出し冊数だけではなく、貸し出し回数も増加傾向にある。

理由として、閉館時間を延長したことや貸し出し冊数を増やしたことにより社会人の利用増加に繋がったからと考えられる。

図書館(外国)

外国の図書館の中には日本の図書館と雰囲気が全く違ったものがある。

ここではデンマークの図書館を例に挙げる。

デンマークの図書館

特徴

・生涯学習を公共図書館の理念として掲げている。

よって、コミュニティ住民の情報への公平のアクセスを確保するための活動を一貫して行い移住区がどこでも、平等な図書館サービスが受けられることを目標としている。

・公共図書館が公的サービスとして確固たる位置づけをもち、図書館サービスの公的財源と専門職制を揺らぎないものになっている。

日本の図書館との違い

・日本の図書館のマナーである3D(Don,t make noize、Don,t eat or drink、Don,t play games)がなく、賑やかで、図書館内にカフェがあり借りた本を読みながらお茶をすることも出来る。

・ゲームも情報資源という観点から、情報の平等なアクセスを確保すべく図書館内ではXboxなどの家庭用ゲーム機とそのソフトが存在しており

館内に於いてゲームをすることが出来る。

・情報の平等な提供という観点から図書館では放課後の小学生に対し宿題や勉強の補助を行っている。

・図書館という場を最大限に活用して週末は図書館に於いてまちの議員と対話することができ、市政の情報や知識を共有することが出来る。

(条例化されているので議員は必ず図書館に赴かなければならない。)

デンマークではデジタルデバイドの解消を図書館を通して積極的に取り組んでおり、図書館政策について日本の先を進んでいる。

両者の違い

・両者の決定的な違いとは、
情報を提供する図書館に対して書店は情報を販売しているということである。

この決定的な違いを踏まえ両者を比較する。

図書館

- 1幅広い時代の資料や出版物を並べ利用者に貸し出しという形で提供する。
(しかし、最近では新刊を置く図書館が増えてきており、出版社や書店会社から売り上げが減るとの批判がある。)
- 2印刷媒体や電子情報、出版ルートにのらないチラシや歴史記録を過去にさかのぼって体系的に蓄積。
- 3市民の情報活用力の育成と情報環境の整備。
- 4人と人との出会いの場の創出し、新たな知を生み出す。
- 5研究スペースなど知的活動のための空間を提供。
- 6著作権やデジタル化などの新しい動きに対して、民主的な情報環境作りのために行動。

書店

- 1→「情報」は貸し出しではなく販売という形で提供される。
- 2→書店では新しい資料や出版物を中心に販売するために蓄積する(古い出版物のために在庫をつくる)ことは出来ない。
- 3→そのような活動はメセナに分類されるが、書店という場で行うのは難しい。
- 4→書店側がバックアップする事は難しいが、やり方次第では可能。
- 5→「空間を提供」といった事は、直接の利益が生じないため書店における実現は難しい。
- 6→このような活動も直接の利益が生じないため書店における実現は難しい。

両者の長所と短所

図書館

長所

- ・気になる資料を無料で借りることが出来る。
- ・小さい子供が絵本を座って読めるスペースがある。
- ・紙芝居の朗読のサービスがある。
- ・図書館司書などと共に求める類の情報を収集することが出来る。
- ・勉強できるスペースがある。
- ・(図書館がある)街の情報を知ることが出来る。
- ・本に詳しい司書や係員がいるので新たな本との出会いが期待できる。
- ・目の不自由な人でも読める本(点字本)がある。
- ・低所得者でも本を借りることによって、教養を深めることが出来る。

短所

- ・人気のある資料は借りられるまでに時間がかかる。
- ・新刊を提供するのが遅い。→情報が古い。
- ・借りられる書籍は使用感のあるものが多い。
- ・幅広い資料を扱っているために、価値が低いと判断された資料は存在せず目的の資料にたどり着かないことがある。
- ・一度に借りられる本の冊数が限られている。

書店

長所

- ・本を買うことにより、自分の所有物とすることが出来る。
- ・書店員といった、雇用を創出する場となっている。
- ・新刊が多い。
- ・使用感がない。
- ・人気のある本は多く店頭で並べてあるので、購入出来ないといった心配はあまり必要ない。
- ・金がある限り欲しい書籍を購入することが出来る。

短所

- ・昔に出版された本を購入することが困難。
- ・アルバイトなどによる書店員の質の低下。
- ・商業主義に反して立ち読みされてしまう。
- ・誰でも平等に情報を共有することが出来ない。

(低所得者、全盲、など)

両者を結合した例(武雄市)

武雄市図書館

世界初の公設公共図書館

公共図書館としての機能と書店としての機能を混合したまま、TSUTAYAの付属物と化している。

CCCが企画・運営している図書館

CCCは「図書館を中心とした市民生活の提案」といったコンセプトを掲げ、資料収蔵や図書貸し出しの場といった従来の図書館像を捨て、図書館、書店、カフェがいったいに融合することで、勉強、仕事、娯楽といったさまざまなライフスタイルおよびステージの市民に居心地のよい場所と新たなコミュニティを創出している。これは、先に述べたデンマークの図書館と似た点がある。

- ・図書館にカフェがある。
- 日本の図書館のマナーである3Dの(Don,t make noize と Don,t drink)脱却
- ・図書館によるコミュニティづくりがデンマークと類似している。

長所

- ・民営にした事で営業時間を延ばすことが出来、より多くの人が情報を共有できる場となったこと。
- ・民営化したことによって自由な「図書館」像を描けるようになったこと。
- ・3Dの一部を廃し図書館にカフェを取り入れたことによって娯楽としての読書を館内で実現。
- ・上記の実現による、新たなコミュニティの創出。
- ・一般企業が企画・運営しているということで、行政の軽量化を図れた点。
- ・武雄市図書館ホームページに於いても資料の検索が出来、便利。

世界初の取り組みによって、改装前の何倍もの来館者を獲得している武雄市図書館であるがこの取り組みに反対する団体や人もいる。

武雄市図書館に反対する理由

- ・新刊を多く並べることによる、著者への経済的打撃を与えかねないため。
 - ・とても便利な武雄市図書館が出来たために地元の小中書店が打撃を受けるため。
 - ・図書館という場で情報の「提供」ではなく「利益」を求める姿勢。
- 運営が民間であるが故に発生する。この点に関しては先に述べたデンマークの図書館とは真逆の立場にある。
- ・開設までに市民への情報開示が進められなかった為に民主主義的な図書館でないから。

武雄市図書館の課題

- ・新しい情報・資料VS著者・出版者の利益
- ・武雄市図書館と地元書店
- ・図書館としての情報の提供VS企業としての利潤追求

両者の共存

書店は利益追求を基本姿勢として、図書館は万人への情報の公平なアクセスと提供を示す姿勢を追及すれば、利用者は、目的に応じた使い分けが可能であるので両者は共存でき、且つ消費者、利用者の意思決定の達成のために両者は存在しなければならない。

また、武雄市図書館のような例は、利益を追求しながらも万人に対する公平な情報の提供を追及できるかが重要でありさらなる研究と発展が求められる。

まとめ

- ・書店は利益の追求、図書館は公平な情報の提供が基本姿勢である。
- ・鳥取駅付近に大型書店を誘致する場合、武雄市図書館の課題のように元からあった書店について考慮しなければならない。(『書店と商店街・鳥取駅周辺の本屋と書店』で論ずる)
- ・図書館の長所、書店の短所を踏まえ、よりよい書店誘致の環境を作る必要がある。



(図1)武雄市図書館

参考資料・文献

- ・『未来をつくる図書館～ニューヨークからの報告』著者・菅谷明子
- ・日本著者販促センターホームページ
- ・武雄市図書館ホームページ
- ・国立国会図書館ホームページ 吉田右子
- ・日本とデンマークの図書館の比較 富井篤弥
- ・CCCホームページ
- ・Aarhus Public Libraries 公式ホームページ
- ・Wikipedia
- ・todo-ran.com

第五章、書店と商店街・鳥取駅周辺の本屋と書店

目的

ここでは鳥取駅周辺の本屋や書店についてまとめると共に、他の都市の駅周辺の本屋と書店との比較を行う。また、鳥取駅周辺の本屋・書店の現状を踏まえ、大型書店誘致による商店街の活性化や小中型書店の共存について論じていく。

アウトライン

- ・鳥取駅周辺の本屋と書店
- ・鳥取駅周辺の商店街の実情
- ・書店の比較
- ・書店と商店街
- ・まとめ

鳥取駅周辺の本屋と書店

本屋及び書店紹介

・今井書店鳥取駅前店

〒680-0833

鳥取県鳥取市末広温泉町164

※2013年7月28日閉店

鳥取駅周辺で一番近くに立地していた書店。

「鳥取駅前にあり繁華街にも近く便利な今井書店鳥取駅前店」と当時は謳っており、政府刊行物や郷土本コーナーがあり出版物は著者別に陳列され見やすく探しやすい本屋であったそうである。

閉店の理由

→店舗の老朽化によって、この場所で営業を続けていくのが困難となったため。

・ブックスエスパス

〒680-0833

鳥取県鳥取市末広温泉町159

※閉店していると考えられる。(場所も分からず、電話も繋がらなかった。)

！インターネットで検索すると書店として出てくる本屋・書店の一部は閉店しているものも有ると言うことが判明した。

・奥田書店

〒680-0037

鳥取県鳥取市元町275

「書店」とあるが、実際は出版物(教科書)の貯蔵や販売を行っており、棚が並んでいて小説や漫画、雑誌の並んでいる書店ではない。

・山村交文堂書店

〒680-0037

鳥取県鳥取市元町317-2

※インターネットで検索すると書店として出てくるが、書店自体は閉店しており、現在はお婆さんがそこを借りて、編み物教室及び地元野菜を売っている。(因みに2014/5/2に訪問したときは、はっさくや大豆、餅などが店前に並んでいた。)

お婆さんの話によると、この書店はかつて専門書を扱った書店だったという。

書店は智頭街道商店街に位置しており、今の商店街について意見を訊くと、

「淋しくなっていて、また駐車場がないのが商店街に立ち寄る人を減らしている。」と述べていた。

・花房書店

〒680-0037

鳥取県鳥取市元町316(山村交文堂書店の右隣)

小規模の本屋であり、いかにも商店街の書店と言う雰囲気を出しており70代の書店の店主も、町の本屋というイメージをアピールしていた。

鳥取県が読書にかけのお金が少ないということについてどう考えているかという質問に対して、店主は驚き、またもっと本を読んで欲しいと述べていた。

商店街について、寂しくなったと回答。店内の本の冊数については、数えたことがないから分からないと述べていた。



(図1)今井書店跡地



(図2)旧山村交文堂書店



(図3)花房書店

店内は、児童書・小説・雑誌・漫画が同じくらいの割合で陳列されている。
しかし、小説は新刊ではなく少し古い時代のもが多く男性向きで、また雑誌についても中高年の男性向けの雑誌が多かった。
※雑誌について踏み込めば色物が多かった。

また、若者(10代～20代)が好むライトノベルといった分類の書籍は1冊も置いておらず、若者の利用率が低いことが判断できた。

・(株)横山書店

〒680-0051

鳥取県鳥取市若桜町34

鳥取駅周辺、商店街の中の本屋・書店では現在一番大きい店である。

横山夫妻と数名の書店員からなる町の本屋。店は明るく良い雰囲気であった。

雑誌、小説、児童書はそれぞれ1対1対1くらいのバランスの良い配置で、

新刊も大分多く陳列されている。漫画の冊数は少なめではあったが、60冊ほどライトノベルも陳列されていた。(図4)横山書店

また、他の書店では見かけない小中高校生向けの「問題集」が多く陳列されており、「赤本」も並んでいた。

しかし、この書店には駐車場が存在しない。店主の妻も「横山書店」の利用者は、

「お年寄りや公務員、近所の方々が多く、学校の放課後にたまに小中学生がここに寄っていく。」と述べており、

車を使わなくても書店に立ち寄ることが出来る人の利用が多いと言える。

(公務員とは役所員の事だと考えられる。横山書店は県庁、市役所が隣接しており、それぞれ徒歩圏内にある。)

・定有堂書店

〒680-0037

鳥取県鳥取市元町121定有堂ビル一階

鳥取環境大学経営学部 of 奈良敏行氏が店主を勤めている。(奈良氏の担当は文書作成)

店主は不在で訪問時(2014年5月9日)は若い男女二人が店番を行っていた。

店はお洒落で、狭い敷地にぎっしりと本が陳列されていた。

入り口付近はハードカバーの書籍、奥は文庫版の本が並んでいた。

この本屋は個性的で、本をジャンル別(料理、美術、思想、猫、CAFE、文化)に陳列しているため、

小説、写真集、絵本が混在して置いており、面白味を感じるものであった。

一般的な出版会社別、著者別ではないので、少々探しにくいレイアウトではあるが、

敢えて探しにくくすることで、思いがけない本との出会いを生み出す空間を作っているのだろう。

定有堂書店を訪問して、小規模書店はレイアウトなど雰囲気や個性を生み一種の本の美術館の様な、

寄りたいたいと思える環境作りが大切だと実感した。



(図5)定有堂書店

鳥取駅周辺の商店街の実情

鳥取駅周辺には9つの商店街が存在している。

1鳥取本通商店街

2若桜街道商店街

3末広温泉商店街

4新町通商店街

5新鳥取駅前地区商店街

6鳥取二階町商店街

7鳥取太平通り商店街

8智頭街道商店街

9瓦町商店街

ここではその中で、本屋・書店との関わりの濃い、

1、2、8の商店街について実情を述べる。

智頭街道商店街(花房書店・奥田書店・旧山村交文堂書店が出店)

歴史

江戸時代中期頃栄えた通りの商店街。

江戸時代には和服の販売で盛り上がり鳥取の文化の中心を担ったという。

また昭和6年には五臓圓ビルという建築物がこの商店街の通りに建設されたが、昭和18年の鳥取大震災や昭和27年の鳥取大火を乗り越え、

今ではこの商店街のシンボリック的存在を担っている。(国登録有形文化財、現在ビルには五臓圓薬局が入店。)

鳥取は戦国時代後期から江戸時代前期にかけては、

今の鹿野通りが食材市場として栄え、江戸時代にかけては和服販売でこの智頭街道が栄え、

戦後は若桜街道が洋服販売で栄えた経緯がある。時代と共に栄えた地域が右の通りへと変わっていったのである。



(図6)智頭街道商店街

しかし現在ではモータリゼーションの発達により、郊外に建てられた大型ショッピングセンター(鳥取市ではイオンモール鳥取北)が接客型商業の中心となり、またインターネットの普及と発達によりネット商店を使用して商品を買うといった消費者が増えているためにどの商店街も衰退している。

智頭街道商店街の特徴

智頭街道商店街は商店街として生き残るために「ネット商店では出来ないサービスの提供」を行っている。その代表が、「楽器屋兼音楽教室」である。

2014年5月2日に行った智頭街道商店街振興組合の中村理事長と富井との対話で、理事長は「商店街が生き残る道は、ネット商店や大手商店が出来ないようなサービスの提供をすることである。」と述べ、「智頭街道商店街は、文化の通りであり、『音楽』を中心に楽器の販売だけでなく、音楽教室を開きまた、楽器を演奏したいと言う人々にコンサート場の提供を行い、商店街でコンサート・ライブを行ったりしている。」と特徴を述べた。

智頭街道商店街の活気

5月2日(金曜日)の15時ごろに富井が散策したところ、商店街のアーケードはたまに人が通るくらいであり、寂しさを感じた。シャッターが閉まっている店舗も多かった。

楽器屋が商店街の北側にあるが、ドラムの練習音がズンチャズンチャと外に響いていた。理事長や組合員との対話では、この商店街が盛り上がるのは「祭り」のときである。

4月の「桜祭り」や5月の「聖祭り」、6月の「因幡の手づくりまつり」、8月の「しゃんしゃんウィーク祭り」で盛り上がるが、その「祭り」でさえ、最近では少し活気が薄れてきたと理事長は危機感を示していた。

よって2014年は小学生や大学生が商店街の通りで屋台を出す「因幡の手づくりまつり」によって商店街の来街者を増やす努力をしている。

また、智頭街道商店街はアーケードの天井の塗り替えや、照明のLED化を行い、またこれからアーケードの屋根の塗り替えを行い、

商店街の雰囲気をよくするべく改修を行っている。

智頭街道商店街の課題

・駐車スペース

智頭街道で書店を経営している者や、振興組合員が述べていたがこの商店街、駐車スペースがないのである。智頭街道商店街は鳥取駅から1.1キロメートルと、歩いて向かうには少し遠いのである。そのこともあって商店街を利用する場合は車での利用となるが、路肩に駐車すると時々通りかかった警察に注意される事があつたりすることがあるそうだ。駐車スペースの確保の課題がまず挙げられる。

・土日

商店街は土日になると閉店してしまう店が多く、その事が賑わいを失う原因となっている。

・跡継ぎ

商店街の経営者の年齢は高齢者の方が多いが、その跡継ぎが存在せず、跡継ぎがいないと商店街自体が消滅してしまう可能性がある。

若桜街道商店街(横山書店、定有堂書店が出店)

歴史

戦後栄えた商店街で、洋服店で賑わった。

一時期は土曜日に商店街に車が入れないようにして、歩行者天国にしていた時期もあったが現在は行っていない。

現在、商店街は元からあった呉服店や洋服店をはじめ、飲食店や模型店など多様な種類の店が出店しており地元の客が利用している。

若桜街道商店街の特徴

国道53号線両側沿いの商店街である。

戦後から栄えたということもあり商店街は、呉服店や洋服店が多く今でも多くの服店が存在している。また駅周辺の商店街の中では栄えているほうであり、シャッターが閉まっている店舗も多くはない。

若桜街道商店街の活気

5月9日(金曜日)の15時頃に富井が散策したところ、それなりに人通りはあつたが若干寂しさを感じた。しかし、16時頃になると生徒の下校で商店街は話し声や笑い声で賑やかになった。

また横山書店の店主の妻によると「(商店街は)土曜日曜はゴーストタウンになる」と言っており、



(図7)若桜街道商店街

平日より休日の方が活気がなくなり寂しくなると述べていた。

今回の散策ではシャッターを閉めている店舗は2割～3割程で智頭街道商店街と比べるとその割合は大分低かった。そして、この商店街が盛り上がるのも祭りの時であり、しゃんしゃん祭りではかさ踊りの通路となり活気を見せるそうだ。

若桜街道商店街の課題

・駐車スペース

この問題は多くの商店街に共通して発生している問題といえる。

横山書店も敷地はそれなりに広い書店で、駐車スペースを作れば、売り上げが伸び、売る本も増やすことができ結果的に、主要な書店として発展するものと考ええる。

駐車場がない事によって商店街はその賑わいを失っていると言っても過言ではない。

・土日

智頭街道商店街と同じく土日に店を閉めてしまうことは、活気を失う原因となっている。

・高齢者向け

散策に於いて気付いた事だが、呉服店や洋服店はほとんどが高齢者の好みの服が並べており、若者が商店街に足を運ばない原因となっている。

経営者が高齢化していることもあり、服店はその経営者＝高齢者好みの物が多くなってしまっている。

そのことから、若い人が商店街を継ぎ若者にも足を運んでもらえるような場所にしなければならない。

鳥取本通商店街(旧今村書店鳥取駅前店、旧ブックスエスパスが出店)

歴史

戦後10年頃から栄えだした、鳥取駅周辺では一番新しい商店街。

全国のがんばる商店街77選に選ばれ、

今では駅から近いこともあって一番賑わっている。

鳥取本通商店街の特徴

国道53号線沿いの商店街であり、駅から若桜橋の区域が商店街の範囲である。

(若桜橋を越えると、若桜街道商店街となる。)

駅近くということもあり、飲食店が盛ん。

鳥取本通商店街の活気

5月9日(金曜日)の15時ごろに富井が散策したところ、通行人はやや多く少し賑やかであった。

また、平日の夕方の帰宅時間頃は多くのサラリーマンがこの商店街の飲食店(居酒屋)に寄るためか、かなり賑やかになる。

駅付近ということもあり、寂れている雰囲気もあまりなく、駅周辺の商店街の中で断然の活気があった。

また、しゃんしゃん祭りのかさ踊りの通りなどあらゆる中心を担っており活気付けるものがこの商店街には多い。

しかし、駅から離れていくにつれてその活気の度合いが小さくなっている。

鳥取本通商店街の課題

・持続

この活気を長く持続させるために商店街は常に賑わいが持続する戦略を提案し、それを実行していかなければ、大型ショッピングモールやネット販売に押されてしまう。

・他の商店街への補助

鳥取ではこの商店街の賑わいが一番であり、それ以外は現在多くの商店街が直面しているシャッター街の問題を抱えているので、

この商店街は他の商店街を活気付ける補助を行い、商店街同士の良い関係構築と、鳥取市街地の活性化に勤めることが必要。

・駅から離れた店

賑わっているのは駅付近であり、同じ商店街でも駅から離れている場所は賑わいが失われているのが現状だ。

駅から離れた店の来客をどう促進するかが課題である。

書店の比較

ここでは、他の都市の駅周辺に展開する書店と鳥取駅周辺の書店を比較し両者の長所や短所を述べてゆく。

比較の対象にする都市

- 1、つくば市(つくば駅周辺)
- 2、柏市(柏の葉キャンパス駅周辺と柏駅周辺)
- 3、姫路市(姫路駅周辺)
- 4、松江市(松江駅周辺)

1、つくば市

茨城県南部に位置する人口21万9千人の市。

つくば市は学術研究都市で日本の主な研究機関がここに集中している。

また、大型国立総合大学である筑波大学がある。

書店



(図8)つくば駅周辺

つくば駅周辺には主な書店は4つある。

まず一つ目は地図中には載っていないが、駅(×印)の南にある西武百貨店5階のリブロである。百貨店内ということもあって、規模はそこまで大きくないが主な新刊や書籍は並んでおり、駅から近いこともあって通勤する社会人や学生もよく寄っている。次に①のブックエースである。ブックエースは水戸市が本社の書店であり、TSUTAYAとも連携している。この店は中規模書店で雑誌に力を入れており、様々な種類の雑誌が置いてある。三つ目は⑦のくまざわ書店だ。駅からは少し遠いショッピングモールにある大型書店だ。子供向けの本に半分近くのスペースをとっているのが特徴。最後は③の有朋堂書店だ。この書店はつくば市のみ展開している書店である。中型書店でこちらも駅から少し離れているが、バランスの良い出版物の配置で周辺住民に好まれている。

つくば市は20万人程度の市ではあるが文教都市ということもあり、くまざわやリブロといった大手書店が進出している。(書店会社については、第七章「書店会社について」で記す。)



(図9)ブックエース



(図10)くまざわ書店



(図11)リブロ

2、柏市

千葉県北西部に位置する人口40万4千人の市。

中核市、業務核都市に認定され、現在発展途中の市である。

書店



(図12)柏駅周辺



(図13)柏の葉キャンパス駅周辺

・柏駅周辺には歩いて直ぐのところに大きな書店が3つある。

まず一つ目は、⑧のウイングブックセンターだ。この本屋は、主に学生を相手に書店を運営している模様である。次に②の八重洲ブックセンターである。大型書店であるがカテゴリ別に書籍が並んでいることから書籍を探すのが困らないのが特徴で、また店員も丁寧かつ素早い行動である事が窺えることから忙しい通勤通学者の事を配慮しているものと見られる。最後に⑨の浅野書店である。中型書店で駅ビルの外にあるが、本のポイント制を導入して客の支持を得ている。

・つくばエクスプレス沿線の「柏の葉キャンパス駅」の@KaBos ならばーと柏の葉店は駅周辺の唯一の書店と言うこともあり大型である。店内は広々しており、またこちらも、大型書店であるがジャンルの区分が明確で求める本が探しやすい。子供にも配慮したつくりで子供向けの本は低い位置にあり、また子供が本を読めるスペースもある。

余談であるが、書店調査を行った椎名は、書店は本の配置が重要だと指摘し、ある書店(店名は伏せる)では特設コーナーが多く、出版物の配置の移動が多いことから求める本がなかなか見つからず不便と述べている。

この事から、それなりの大型書店では個性よりもストレスフリー・使い勝手を重視することが大切である。



(図14)八重洲ブックセンター



(図15-16)@KaBos



3、姫路市

兵庫県の南部に位置する人口53万5千人の都市。

世界遺産の白鷺城は有名。

書店



(図 17)姫路駅周辺



(図 18)鳥取駅周辺

姫路駅周辺には、大型書店が二つと周りに小中型書店が並んでいる。(図 17)

また、この地域の本屋の配置は現在の鳥取駅に大型書店を置くと類似した模様になる。姫路駅周辺には二つの大型書店があり、まず一つ目は①の大手書店のジュンク堂だ。この書店は大規模ということもあり、広い敷地を活かして、幅広い出版物を陳列しているのが特徴である。次に⑥の宮脇書店だ。こちらも全国展開の書店で大型である。イオンのショッピングモール敷地内にあることから周辺住民の客も訪れるため、ジュンク堂に圧されず経営できている。(図 18 は鳥取駅周辺の書店。姫路駅周辺と類似している。)

4、松江市

島根県東部に位置し宍道湖を望む県庁所在地の都市。

人口は20万6千人で鳥取市より1万人程多いが、過疎化が進行している。

書店



(図 19)松江駅周辺

松江駅周辺には、大型書店が二つある。

まず一つ目は①の今井書店だ。今井書店とは山陰に展開する書店会社である。松江駅にはシャミネと言う商業施設があり、今井書店はここで出店している。(鳥取駅にもシャミネがあるがこちらでは展開していない。)

この書店は明るい雰囲気での松江の玄関口の書店として県内外の客にも満足してもらえるよう幅広い出版物を扱っている。そして二つ目は、⑦の未来屋書店だ。未来屋書店はイオンのショッピングセンター内にあり大型書店である。松江市は人口二十万の都市で、大手書店の出店基準を満たさない都市ではあるが県庁所在地という事もあり未来屋書店は出店しているものと考えられる。

どちらの書店も広く市民に活用されており、情報発信地として機能している。

比較

まず鳥取駅周辺を含めた6つの地域の中で、一番便利なのは姫路駅周辺と言える。丁度良く距離を置いて二つの大型書店があり、また駅周辺の小中規模書店も存続していることからそれぞれのニーズにあった書店選び、および書籍の購入ができるのも魅力的だ。次に松江駅。これも姫路駅と類似して駅構内にひとつ大きな書店を構え、程よい距離に大手書店の未来屋書店が立地している。つくば駅は中心地の書店が中規模であるが、それぞれの生活圏に一つ便利な書店が存在している事を考えると、便利とも言える。逆に柏駅は駅に書店が集中し過ぎてしまい、駅から離れた住民で、駅をあまり利用しない人には不便であろう。また柏の葉キャンパス駅周辺は@KaBosの一人勝ちであるが、周辺住民の全てのニーズに答える事は難しい事から、そういった点では一部の住民が不便を感じるようになるだろう。

鳥取駅周辺は中心と言える書店がなく、これらの地域と比較しても不便と言わざるを得ないが、仮に駅付近に大手の書店を誘致することが出来れば、姫路駅周辺と類似しているので、一気に便利になると考えられる。

まとめ

これらの地域の駅周辺の書店事情を比較することで、便利な書店の姿を発見する事ができた。

それは二つあり、一つ目は書店同士の距離であり、駅周辺に集中しすぎないことと、駅周辺の人が集中する所に均等に出店している事が挙げられる。二つ目は多種多様な周辺住民の期待に答えられる為に、大型書店一つに集中せず、大中小型書店の出店がそれぞれ複数あることである。

これらをクリアしている地域は住民の書店や情報に関する満足度も高いであろう。

最後に鳥取駅周辺に大型書店を誘致し、かつ周辺の小中型書店も引き続き存続することが出来れば、上記した二つの点をクリアすることが出来るので、誘致できれば鳥取の書店及び情報事情は急速に満足度の高いものとなるだろう。

書店と商店街

ここでは商店街に於ける書店の意義と書店が商店街にもたらす効果を述べてゆく。

また書店を利用し、地域活性化したまちを挙げ自らも誘致による地域活性化の方法を提案してゆく。

書店が商店街に存在する意義及び効果

多くの商店街には一つか二つ程の書店が出店しているが、これらが商店街にどのような影響を及ぼしているのかを述べる。

・商店街周辺の地域及びコミュニティの情報発信源としての役割。

→出版物の閲覧、購入や、地域の催しの情報など情報発信の拠点

・書店の存在による情報を求める地域住民、コミュニティによる商店街の訪問

→商店街に人を集める効果を生んでいる。

・商店街周辺の地域及びコミュニティの話題の提供の場。

→新刊など、情報を提供することにより人々に話題を提供する役割を持つ。

これらの意義や効果を持つ書店は商店街にとって重要な商店であることが確認できる。

書店の存在によって情報が発信され、人が訪れ、人との繋がりが生まれるといった効果を最大限にする為にも、

書店員の積極的な情報発信と商店街との協力体制が重要である。

書店誘致による地域活性化

・留萌市

留萌市は、人口約2万4千人の過疎化が進行している市ではあるが、水産加工を基幹産業として国の重要港湾を中心に発展を続けてきた。またこの市は北海道の出先機関である留萌振興局が置かれるなど、官公庁の出先機関や民間企業の支店などが数多く置かれている。その留萌市から、平成22年12月に市内で長年営業を行ってきた地元書店が販売不振等を理由に閉店し、小・中学校9校、高等学校2校を抱える市内、商圈区域4万人といわれる地域から書店がなくなった。

書店がなくなった事で住民は情報を得る一つの手段を失い、中学生や高校生は、受験対策用の問題集が買えないなど、他地域との情報格差が発生し、市内は混乱状態になった。そのような中、主婦たちが結成した市民グループ「三省堂書店を留萌に呼び隊」の要請などもあり、留萌振興局や留萌市などが、三省堂書店の誘致活動を行い、市民グループも同書店誘致の署名を、ポイントカード会員を集めるといった手法で実施するなど、官民挙げた取り組みの結果、平成23年7月24日大手書店の出店基準とされている人口圏域30万人の10分の1にも満たない留萌市に三省堂書店がオープンした。

これを機に、地域の活性化や活字文化の推進などに互いに連携して取り組むこととして、まず留萌振興局が三省堂書店と包括連携協定を締結し、全国の店舗やブックカバー等を活用した留萌地域の食や観光のPRなど、様々な情報発信を行った。

また、市民グループ「三省堂書店を留萌に呼び隊」は同書店の開店後に「三省堂書店を応援隊」と改名して、その後もポイントカード会員を募り続け、開店1年後には、留萌市の人口のほぼ半分にのぼる会員を集めさらには、市立病院や市内商業施設での出張販売や店舗内での子ども向けの読み聞かせなど、三省堂書店の運営を支援するボランティア活動の広がりも現れている。こうして留萌市は協定締結による行政と企業の連携事業や市民グループの活動を通じて、企業が地域を盛り上げ、地域が企業を支えるという、新しい地域活性化のモデルケースとしても注目されることとなった。

・池袋駅周辺

立教大学経済学部廣江ゼミでは書店を利用した池袋駅周辺の活性化を行うために書店の協力を得て、NFCタグを貼付したブックカバーをジュンク堂書店、三省堂、リブロ、芳林堂を訪れた消費者に配布した。このブックカバーは利用者がNFC対応スマートフォンを使ってスキャンする事で、池袋駅周辺の飲食店や観光スポットなどの情報が配信され、来店促進につなげるというものである。ブックカバーには立教大の学生がお勧めするスポットを示す地図を印刷しており一覧性に優れた印刷物の地図と、検索性に優れた大量の情報を掲載できるスマートフォン向けのデジタルコンテンツを組み合わせることで、効率的に地域情報を提供する事が出来る。

提案

ここでは、これらの書店を利用した地域活性化の事例などを参考にしながら、

鳥取に於いて書店を誘致した際の、書店を利用した地域活性化について提案を行う。

・ブックカバーで商店街に導く

立教大学の廣江彰教授の案を借りるが、鳥取では高齢者が多いことからブックカバーとスマートフォンのコラボはせず、アナログにブックカバーに商店街の地図を載せ、かつ割引券や優待券を付け商店街に人を呼ぶというもの。

この事によって商店街の訪問者を増やす事ができ、また書店の売り上げも安定すると考えられる。

まとめ

大規模書店やネット書店が発達した現在においても、地域の情報発信役としての小中規模の書店の経営は地元住民の為にも重要である。

これらの事を踏まえ鳥取駅周辺に大規模書店を誘致する場合は、その書店は都市部と変わらないサービスの提供を行うことで都市部の情報、文化や芸能を鳥取の人々に共有させる事に重点を置き、一方、商店街に立地する小中型書店は従来の地元住民に活用されるようなローカルな情報発信を行うと共に、書店を訪れる客の意思を尊重した品揃えを行うことを重視することで、両者はそれぞれの特徴を発揮しながら共存は可能である。

しかし鳥取駅周辺に於いて両者が共存する為にはこのこと以外にも両者の協力が大切で、これなしでは商店街に立地する書店は現状より更に経営が難しくなり、商店街からさらに書店を減らす恐れがある。共に定期的に対話し、共存のための意見やアイデアを出し合う事が重要だ。また大型書店誘致における商店街の活性化は、誘致における駅周辺の訪問者を増やすことによってある程度の効果が期待できるが、その影響は小さいものと考えられるので、大型書店と商店街の連携を行い、キャンペーンを行うことによって商店街の立ち寄りを促進させることも大切である。

参考資料・文献

- ・Google マップ
- ・Mapion
- ・若桜街道商店街 ホームページ
- ・鳥取本通商店街 ホームページ
- ・智頭街道商店街だより-Part7
- ・五臓圓ビル ホームページ
- ・月刊地域づくり 2013年7月(第289号)
- ・立教大学 ホームページ

第六章、デジタルデバイドについて

目的

ここでは、都市－地方間のデジタルデバイドの実情について調査し、また書店が与えるデジタルデバイドの影響について述べ、書店の必要不必要に迫ってゆく。

アウトライン

- ・デジタルデバイド
- ・都市地方間のデジタルデバイド
- ・デジタルデバイドと書店
- ・鳥取駅周辺の大規模書店誘致の意味
- ・まとめ

デジタルデバイド

語義

デジタルデバイドとは和訳すると情報格差のことで、都市部と地方間における放送・通信の情報量やサービスの可否に差があることである。

また、情報技術を使いこなせる者と使いこなせない者の間に格差が生じていることを指す。

特に情報技術を使えない、また取り入れられる情報が少ない人々や放送・通信サービスを受けられない地域およびその住民のことを情報弱者と呼び問題となっている。

このレポートに於けるデジタルデバイド

ここでは、「デジタルデバイド」を情報を探る手段が多い若しくは少ない、またはインターネットのみならず、あらゆるマスメディアで情報を得られる人とそうでない人の格差の事を「デジタルデバイド」と定義する。

(デジタルデバイドはコンピュータやインターネットを使えるかで起こりうる格差と述べている辞書が多いが、このレポート《※これに係るレポートも同様》ではデジタルデバイド＝情報格差として、これらを含む広い意味での情報格差の事を指す)

歴史

「デジタルデバイド」の単語が公式に初めて使用されたのは1996年のアメリカにおけるアル・ゴア副大統領の演説である。

この演説でアル・ゴアは「情報スーパーハイウェイ構想」を提案し、2000年までにアメリカ全土の都市部から郊外・農村部に至るまで

情報を隅々に行き渡らせ、デジタルデバイドを解消することを約束し、情報によって所得などの階層が区切られる事のない世界を作ると発言した。

ビル・クリントン大統領も彼に賛同しデジタルデバイドの課題に取り組まなければならないとした。

デジタルデバイド(情報格差)が生じる原因

- ・国家間、もしくは地域間における情報技術力・普及率の格差。

例)A市はホームページ、Facebookや広報紙での市政情報の発信が出来るが、E村では広報紙での市政情報の発信しかできない。

- ・学歴・所得などの待遇面で生じる貧富の格差によって生じる情報を得る手段の有無による格差。

例)A君の家では新聞(朝夕)やインターネット、テレビによって情報を得る手段があるが、D君の家ではラジオでしか情報を得る手段がない。

- ・加齢や障害の有無など個人間の格差。

例)Aさんはお嬢様である為に親から見られるテレビ、インターネットのページが制限されているが、Cさんはどのテレビ番組やインターネットのページも見られる。

デジタルデバイドが生じる情報機器及び手段

これらの所有が多様であり、かつ適切に情報を扱えるほど、多くの正しい情報を入手することが出来る。

- ・ラジオ

聞ける局が多いのと少ない事でも格差が生じる。

・新聞

新聞を取らないうで格差が生じる。そして新聞は折込チラシも同梱している場合も多く、それによって強い消費者と弱い消費者の差を生み出す恐れがある。

また新聞は主観的事実を伝えるものが多い為、読み手の情報処理能力、対応能力によって同じものを読んでいる場合でも格差が生じる。

・テレビ

見られる局が多いのと少ない事で格差が生じる。また衛星放送、BS放送、CS放送の契約の有無によっても格差を生じさせる恐れがある。

・携帯電話、スマートフォン

これの有無でどこでも通話や情報交換と言った事に格差を生じさせる。

・インターネット

インターネット接続の有無は現代の社会で大きな格差を生み出す。

これの有無によってリアルタイムの情報獲得で差を生じさせ、またインターネットショッピングは強い消費者と弱い消費者に大きな差を生じさせている。

デジタルデバイドの多くはこのインターネットが使えるか使えないかで生じる格差の事を指すので、インターネットによる情報格差への影響は多大である。

・図書館

自治体に有る図書館の蔵書の多い少ない、蔵書の種類の多様性が地域間の情報格差を生み出す。

・書店

地域に有る書店・本屋の出版物の多い少ない、出版物の種類の多様性が地域間の情報格差を生み出す。

また、所得格差によって、書店の出版物を得られるかどうかでも格差が生まれる。

・人

人とのコミュニケーションの多い少ないで格差が生じる。

また関わる人との違いによって情報に偏りが生じることがある。

影響

ここでは情報機器及び手段を持たない事で起こりうるデジタルデバイドの影響を取り上げる。

・インターネットが繋げない事による、情報へのアクセスの手間や時間による格差の発生。

例)インターネットが無いと、ちょっと気になった事を調べるために、図書館まで行かなければならない。

・インターネットショッピングが出来ない事による、その消費者の損。

例)普通に買うと1000円の商品Aがインターネットでは500円で買える。

・インターネットが繋げないことによる、人とのコミュニケーション手段の損失。

例)震災で電話回線はパンク、またインターネットを持ってないので無事を知らせることが出来ない。

・新聞を取っておらず織り込みチラシを獲得できないことによる消費者の損。

例)新聞の折り込みチラシにレストランのクーポンがあり、取っていない人は損をする。

・テレビを持っていないことによる対人コミュニケーションに於ける損。

例)テレビを持っていないのでテレビドラマの話題についていけない。

・携帯電話を所有していないことによる、人とのコミュニケーション手段の損失。

例)目的地のレストランに行きたいが道に迷い、また携帯電話がないので連絡できず辿り着く事が出来なかった。

・スマートフォンを所有していないことによる、その消費者の損。

例)スマートフォンのアプリケーションでレストランの割引券となるものがあり、持っていない人は損をする。

・書店がないことによる、その消費者の損。

例)好きな作家の新刊が発売されたが、家の周辺には小さな本屋しかなく購入することが出来なかった。

・図書館の設備が不十分であることによる、地域住民の損。

例)A市の図書館は新刊や様々な種類の本が提供されているが、F市の図書館は古い本が多く、また本の種類に乏しい。

都市地方間のデジタルデバイド

ここでは、日本の都市と地方で発生しているデジタルデバイド(情報格差)について述べる。

日本に於けるデジタルデバイドの対策と取り組み

2000年11月「高度情報通信ネットワーク社会形成基本法」

この法律はインターネット社会の形成に関する施策を政府が重点的に推進するものである。

法律の第三条には「高度情報通信ネットワーク社会の形成は、すべての国民が、インターネットその他の高度情報通信ネットワークを容易にかつ主体的に利用する機会を有し、その機会を通じて個々の能力を創造的にかつ最大限に発揮することが可能になり、

もって情報通信技術の恵沢をあまねく教授できる社会が実現されることを旨として、行わなければならない」としており、政府はインターネットの使用を全国民が平等に行えるようにしていくべきだと主張し、また政府としてもこれらによる格差が起きないように、その施策を行っていくことの意味表示をしている。

それを特に強く示しているのが同法第八条の利用の機会等の格差の是正である。

第八条では「地理的な制約、年齢、身体的な条件その他の要因に基づく情報通信技術の利用機会又は活用のための能力の格差が、高度情報通信ネットワーク社会の円滑かつ一体的な形成を著しく阻害することをかんがみ、その是正が積極的に図られなければならない。」としており、デジタルデバイドの解消について明記している。

日本に於いては、デジタルデバイドの解消の対策は学校教育に於いて積極的に行っている。

学校教育とデジタルデバイドの解消

政府は学校教育に於いて、デジタルデバイドの解消を積極的に行っている。

文部科学省はこの取り組みを「教育の情報化」として推進している。

教育の情報化

高度情報通信ネットワーク社会が進展してゆく中で、子どもたちが、コンピュータやインターネットを活用し、情報社会に主体的に対応できる

情報活用能力を育成することは非常に重要とし、小中等高等学校の各授業、総合的な学習の時間にコンピュータやインターネットの積極的な活用を図っている。

取り組み

・各教科に於いて教員がコンピュータを使っての指導が出来るよう指導。

→情報教育に関する研修の実施によって強化

・公立学校のコンピュータ・インターネットの設備

・情報モラルの教育－中高等学校で必修としている

・情報リテラシーの教育－中高等学校で必修としている

・IT授業の推進

・電子黒板の推進

このように学校の教育現場に於いてコンピュータ、インターネットと児童や生徒が接触する機会を増やすことによって情報機器を使いこなせるようにし、

その格差を是正してゆく姿勢が見られる。

しかし、情報機器を操れるようになったとしてもその先の、適切な情報へのアクセスや情報との向き合い方の解決には至らないので、

情報教育に傾倒しすぎず、一般教養および社会常識を身につけさせる事も同時に行っていかなければならない。

学校教育以外でのデジタルデバイドの解消

情報教育は1977年につくば市立竹園東小学校に於いて全国で初めてコンピュータを使っての授業が行わたのを機にスタートした。

しかし、情報教育が盛んに成り出したのは2000年代初頭であり、情報の教科が必修化されたのは2003年、実に最初の情報の授業から

26年後の事である。その前の世代の日本人は情報といった教科を履修していない人がほとんどで、その人々に生じている情報格差をどう

解消して行くかが大きな課題である。

都市地方間に生じているデジタルデバイド

これまで政府のデジタルデバイドの解消についての取り組みについて述べてきたが、

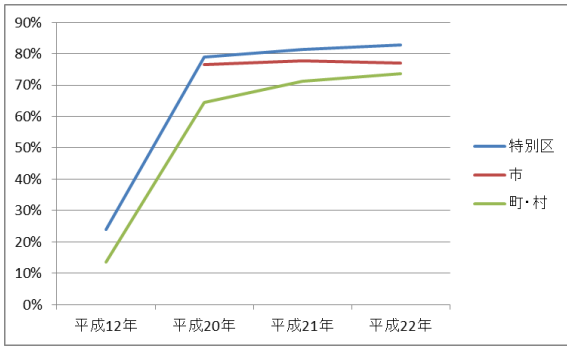
情報教育でこの格差が是正されることは実際難しいと言える。まず、情報教育とはコンピュータやインターネットなどの

情報機器を操作できるように、またその情報の取り扱い方を学ぶ場である。コンピュータやインターネットの使い方を身に着けても、パソコンの設備やインターネットの設備のない家庭もあるのが現実でその時点で格差が生じていると言える。

また情報にアクセスする方法はインターネットだけではない。新聞やテレビ、出版物といった様々な情報媒体が存在し、それぞれ情報を発信している。

この事からインターネットを含むすべての情報を媒介する手段について、都市と地方ではどのくらいデジタルデバイドが生じているのか確認し述べてゆく必要がある。

・特別区、政令市、県庁所在地と市と町村のインターネットの利用率

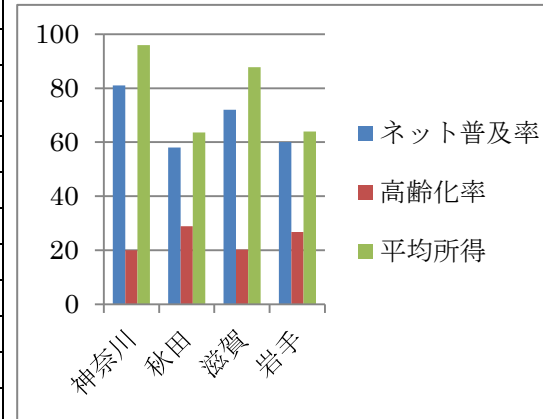


- ・特別区(県庁、政令市)平成12年24%、20年79%、21年81.3%、22年82.9%
- ・市、平成12年1%、20年76.4%、21年77.8%、22年77%
- ・村、平成12年13.6%、20年64.4%、21年71.1%、22年73.7%

〈図1〉

・インターネット普及率(平成23年)と高齢化率(平成21年)、所得(平成24年)のランキング
左がインターネット普及率(%)、中央が高齢化率(100人あたり)、右が平均所得(万円)

1位	神奈川	81%	ネ	島根	28.97	平	東京	582
2位	東京	77%	ツ	秋田	28.92	均	神奈川	532
3位	愛知	77%	ト	高知	28.33	所	愛知	518
4位	埼玉	76%	普	山口	27.49	得	京都	487
5位	奈良	75%	及	山形	27.06	→	滋賀	483
6位	千葉	74%	率	岩手	26.87		大阪	483
7位	大阪	73%	←	徳島	26.74		茨城	482
8位	京都	73%		和歌山	26.69		兵庫	476
9位	滋賀	72%	高	大分	26.44		三重	469
10位	三重	72%	齢	鹿児島	26.35		千葉	464
:	:	:	化	:			:	:
43位	岩手	60%	率	滋賀	20.21		宮崎	362
44位	秋田	58%	→	埼玉	20.01		岩手	352
45位	宮崎	57%		神奈川	20.00		秋田	350
46位	高知	57%		愛知	19.83		青森	344
47位	青森	56%		沖縄	17.44		沖縄	338
平均	—	71%		—	22.75		—	472



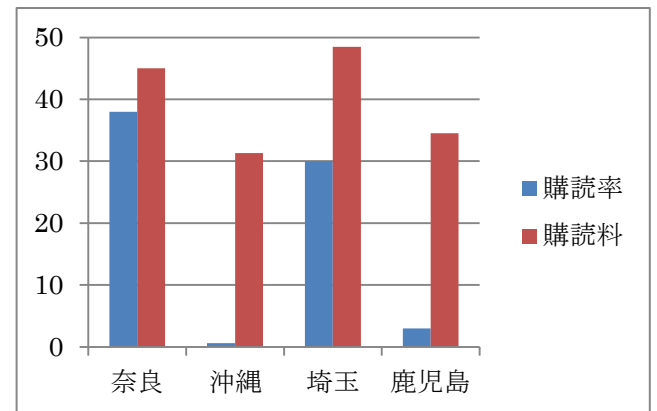
〈図2〉

・新聞購読率(平成22年)と新聞購読料(平成19年)のランキング

左が購読率(100人あたり)、右が購読料(円)

※購読率は読売・毎日・朝日・日経・産経の合計より算出

1位	奈良	38人	購	千葉	43765
2位	山口	34.5人	読	埼玉	43712
3位	和歌山	34.5人	率	神奈川	43022
4位	大阪	34人	←	奈良	40508
5位	千葉	30.5人		滋賀	40370
6位	埼玉	30人		岐阜	40348
7位	東京	29.5人	購	北海	40034
8位	茨城	29.5人	読	愛知	39182
9位	神奈川	29人	料	群馬	39141
10位	兵庫	26人	→	東京	38945
:	:	:		:	:
42位	青森	4.5人		長崎	31291
43位	福井	4人		山口	31207
44位	石川	4人		鹿児島	31114
45位	高知	3人		宮崎	28618
46位	鹿児島	3人		沖縄	28244
47位	沖縄	0.6人		鳥取	26090



〈図3〉

(※ただし、購読率について地方紙が栄えていることもあり、ランキングの結果は新聞全体の購読率に繋がっているわけではない)

・年間の出版物の購入費(円)(平成19年)と10万人あたりの書店数(10万人あたり)(平成22年)のランキング

1位	千葉	63903	出	福井	19.55
2位	埼玉	63831	版	徳島	19.27
3位	神奈川	61641	購	新潟	18.50
4位	奈良	60598	入	石川	17.85
5位	香川	59907	費	高知	16.84
6位	茨城	59522	←	富山	16.07
7位	福岡	59519		長野	15.98
8位	福島	59316		香川	15.92
9位	滋賀	58683	書	京都	15.75
10位	新潟	58245	店	山形	15.52
：	：	：	数	：	：
42位	和歌山	46141	→	奈良	9.72
43位	長崎	45465		大阪	9.59
44位	鹿児島	44384		兵庫	9.51
45位	鳥取	43377		千葉	8.37
46位	宮崎	43225		埼玉	7.50
47位	沖縄	39248		神奈川	6.98
平均	—	—		—	11.46

インターネットの普及率を見ると、関東首都圏や関西都市圏と地方で差が出ていることが確認でき、都市と地方のデジタルデバイドが発生していることが確認できる。また、それらは所得とも関係性があり、例えば平均所得で46位の青森県を挙げると、インターネットの普及率は最下位で平均所得45位の秋田はネット普及率が44位、所得44位の岩手はネット普及率が43位、所得43位の宮崎はネット普及率が45位と、平均所得とインターネット普及率はイコールの関係性があると言える。

(首都圏、関西都市圏のネット普及率と平均所得はいずれも上位。)

また新聞購読料に関しても、平均所得の少ない沖縄や鳥取、宮崎が低い。そして大手五紙の購読率は都市圏から離れた北陸や東北、九州沖縄で低い事から主要都市から離れている事で情報格差が生じていることが考えられる。

出版物の購入費は、一人当たりの書店数の少ない埼玉、千葉、神奈川に於いて高額であり、その地域の書店数の多い少ないと購入費は関係していないように見えるが、これらの地域は大規模な書店がショッピングモールにあり出版物が豊富であること、またこの様な大規模書店の進出で周辺の小中型書店が淘汰されていき書店数が少ないと言ったこと、そしてインターネットによる書籍購入の影響がその関係を生んでいると考えられる。

このようにランキングの読み取りからデジタルデバイドは既に発生している個人や都市と地方の所得格差の強者弱者をほぼそのまま反映していることが読み取れる。

つまり地方は所得に於いても弱者、情報に於いても弱者となる可能性が大なのである。

結論

- ・インターネット普及率は都市と地方で差がある。
- ・所得とネット普及率はイコールの関係である。
- ・高齢化とネット普及率はイコールの関係である。
- ・都市で一人当たりの書店数が少ないのは、大型書店が進出し、小中書店が淘汰されたためである。
- ・所得弱者の多い地方は情報に於いても弱者であることが多い。
- ・主要都市から離れていると、新聞やテレビといったメディアでも都会との情報の差が出来る。

デジタルデバイドと書店

ここでは、デジタルデバイドと書店の関係を明らかにし、また書店はデジタルデバイドの解消に繋がる手段になるかを検討する。

働き

書店は店がある周辺のコミュニティ及び地域の情報発信の場として機能している。

図書館との違いは、

- ・新刊が中心
 - ・商業目的の営業
- である。

また商業目的の営業ではあるが、書店の書籍や雑誌は大抵閲覧可能であり、マナーやモラルといった点で問題ではあるが消費者が「立ち読み」といった形で出版物の情報を無料で所得することは可能である。

このことから、書店に於いてもある程度、本来図書館が果たす役割である、万人への情報の平等なアクセスの実現として情報を提供すると言った事を実現している。

書店に於けるデジタルデバイド

書店はその地域間の情報量を測る一つの指標ともなる。

上記したが、一人当たりの書店数は福井や富山、石川、新潟、山形といった北陸や日本海側で多い。

しかし、それは小中規模の書店が多く、大規模書店が進出していないといった理由も考えられ書店の多さだけでは情報量が多いとは断定できない。

一人当たりの書店が多くても存在する書店の情報量が少なければそれらを集めても、結果として都市部の大型書店の情報量に至らないこともある。都市部では、「くまざわ」や「未来屋書店」などが郊外の大型ショッピングモールに1000坪を超える書店を出店しており、商店街や街中の書店が保有する何倍もの出版物つまり情報量があるのだ。

このことから、書店のあるなし、また書店規模によっても、地域ごとにデジタルデバイド(情報格差)が発生すると考えられる。

電子化

書店に於いても近年、書店をインターネット上に移転することが多くなってきている。

移転が進む理由はレポート「書店とネット書店」に於いて記してある。

課題

ここではデジタルデバイドが絡む書店の課題を提示する。

・書店の電子化

書店がネット書店化していることは、現時点で発生しているデジタルデバイド(情報格差)をさらに広げることとなる。

上記したが、書店もある程度、図書館の様な要素を持っており、不特定多数の人々に情報を発信する場として機能している。

しかし、電子化しインターネット上で出版物を販売することによって出版物(=情報)を買う費用を有し、かつインターネット接続の出来る者への

情報の提供に範囲が狭められることになる。

→書店の電子化における情報弱者にどう書籍を販売、提供していくか

・都市地方間に於ける書店規模

現在主な都市の近郊には大型ショッピングモールが建設され、都市の商店街が大きな打撃を受けている。商店街などにあった小中書店もその一つであり大型ショッピングモールの中には大抵、大型書店が出店しており周辺の書店を淘汰している場合が多い。

しかし、大型ショッピングモールの存在しない小中都市や町、村では、今でも商店街やまちの小中規模の書店があり、地元の人々に情報を提供する場を担っているが、都市の大型書店と比べるとその情報量が大きく違い、デジタルデバイドが生じている。

→書店規模に於けるデジタルデバイドをどう解消していくか

・小中書店の存続

情報量の多い書店が存在する大型ショッピングモールは郊外にあるが、商店街などにある小中規模書店の経営に大打撃を与えている。

しかし小中書店が淘汰・撤退するとその書店をもともと使用していた地元の高齢者は出版物から情報を得る手段を失いかねない。このことが高齢者とのデジタルデバイドを広げてしまう恐れがある。

→地元の小中書店をどう存続させていくか。また高齢者を情報弱者としない為にはどうすればよいか。

・著者と消費者

書店では、商品である出版物を立ち読みできる場合が多い。

そのことによる著者の出版意欲低下と、電子書籍化が進む恐れがある。

出版意欲低下は著者と消費者の間に所持する情報の格差を生み、

電子書籍化が進むことは、インターネットの所有不所有でデジタルデバイドを生むことになる。

→著者の出版意欲をどう高めるか、紙書籍の販売方法をどう行っていくべきか。

まとめ

書店は、図書館が弱い新刊や雑誌、漫画といった情報を多く所持しており、販売している。

その中で新刊や雑誌は問題ではあるが立ち読みをすることができるため、

書店は、万人への情報の平等なアクセスを実現させている働きを持っている。

このことから、書店はデジタルデバイドを解消する手段として機能しているが、

著者と消費者の課題も同時に発生し、解決方法を探らなくてはならない。

鳥取駅周辺の大型書店誘致の意味

先のレポートに於いても述べたが、2013年の7月に駅付近にあった今井書店鳥取駅前店が閉店し、駅周辺では出版物といった情報を発信する場が少ないのが現状である。高齢化が進んでいることやインターネットの普及率も半ばである鳥取に於いて書店がないということは、大阪や兵庫などの都市とのデジタルデバイドをさらに加速させてしまう原因にもなる。また情報自体が少ないことによって、情報への向き合い方、対処の仕方に弱い人を多く生んでしまう恐れもある。そのことが都市部では情報強者を多く生み、地方では情報弱者を多く生む傾向をつくりかねないので、「情報」をなるべく取り入れる為に鳥取の様な都市に於ける書店の出店は大事である。そして、その出店場所は多くの人々が利用する駅付近であることも重ねて述べておく。

まとめ

デジタルデバイド(情報格差)はまず現在発生している所得に影響して、高所得者はそのまま情報強者となり、低所得者は情報弱者となることが多い。また、移住している地域によっても情報の格差は発生し、大手メディア機関の集中する都市部では多くの情報強者を生み、その様な機関から遠い地方では情報弱者を生むことが多い。現在、日本では教育に於いてこれらの格差を縮めようと方策施策を行っているが、これらの教育は、情報機器の取り扱い及び情報との接し方を学ぶ事である。しかし低所得者やこのような教育を受けられなかった中高年層の情報格差を是正する方法にはなっておらず、情報格差を是正するためには、まず現在発生している所得格差の問題の解決、図書館の運営の見直し、地域レベルの高齢者への情報教育を行っていかねばならない。また書店もデジタルデバイド(情報格差)と密接な関係がある。書店の規模が情報格差を生み出す要因となる一方で、この格差を是正する手段にも成り得る。現在、鳥取駅周辺では都市との情報格差を是正する機能を持つ書店は存在せず、その格差を広げない為にも駅付近の書店の立地が必要である。

参考文献・資料

- Wikipedia
- todo-ran.com
- IT用語辞典
- 首相官邸 ホームページ
- 文部科学省 ホームページ
- 教育の情報化 ホームページ
- 総務省 ホームページ
- ソーシャルメディアマーケティングラボ ホームページ

第七章、書店会社について

目的

ここでは全国の書店会社を調べ、それぞれの特徴を論じていく。

アウトライン

- ・定義
- ・書店会社
- ・比較
- ・まとめ

定義

書店会社とは、このレポートでは書籍や出版物の小売店を経営しているものについて指し、かつ広くチェーン展開するものを言う。ただし、ネット書店はこれに含まない。

書店会社

ここでは書店会社を一覧すると共に、各会社の特徴を述べてゆく。
(書店会社は、あいうえお順に並べている)

・あおい書店(株)

-基本情報-

創立昭和58年

資本金1000万円

売上高150億円

代表 八木隆司

本社 愛知県名古屋市熱田区三本松町17番4号神宮葵ビル

-概要-

愛知県名古屋市に本社を置く書店会社。

2010年は書店売り上げランキング全国17位である。

現在、店舗展開している地域は、

東京都(12)、神奈川県(3)、静岡県(3)、愛知県(11)、岐阜県(2)、三重県(2)、京都府(1)である。

また2012年にはあおい書店はネット上にも店舗をつくり、オンライン書店e-honとして書籍を販売している。

-特徴-

各書店の蔵書は10万冊～70万冊でやや大型な書店が多い。

また、出版物の販売以外にもCDやDVDの販売やレンタル、またトレーディングカードといったものも販売している。

-物件募集-

現在、あおい書店では新たな場所へ書店を立地するため物件募集を行っている。

募集要件は以下の3つのうちどれかであること。

1、首都圏駅前型店舗100～1000坪

2、ターミナル駅型店舗500～2000坪

3、ローサイド型店舗400～1000坪 駐車場70台以上

・紀伊國屋書店

-基本情報-

設立昭和21年

資本金3600万円

売上高1129億円

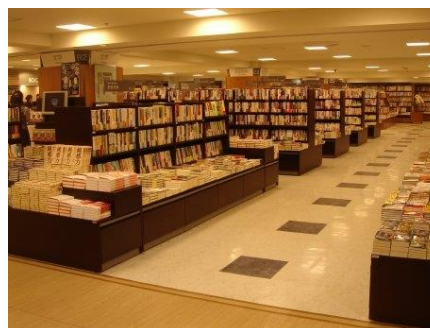
代表 高井昌史

本社 東京都目黒区下目黒3-7-10

本店 東京都新宿区新宿3-17-7



(図1)あおい書店



(図2)紀伊國屋書店

-概要-

日本一の書店売り上げを誇る書店である。

そのことから全国に展開している書店であり、またアメリカやオーストラリアといった海外にも進出している。

しかし、どの都道府県にも存在する書店ではない。

岩手、秋田、山形、福島、茨城、山梨、長野、静岡、岐阜、三重、奈良、和歌山、京都、鳥取、島根、山口、宮崎、沖縄は未だに未進出の地である。各書店の敷地面積は大きいものでは2000坪もあり、大型書店を中心に経営している。

この書店では「書店」の新たな可能性を追求しながらの経営をしており、

また文化、芸術、学問を大衆に広く普及させるといったことも、書店会社として重要だと述べ、デジタルデバインド解決への取り組みも行っている。

-特徴-

その会社規模の大きさから、書店経営だけではなくホール、シアターや画廊の経営も行っている。

また大学の教職員や学生専用のブックセンターも経営しており、

駒澤大学、成蹊学園、麗澤大学、東海大学、南山大学や九州大学などで出店している。

2014年5月末には新宿に12万冊程の洋書売り場を設けることを予定しており海外の情報についても積極的に発信する姿勢が見られる。

-物件募集-

現在は行っていない。

・キクヤ図書販売

-基本情報-

設立昭和38年

資本金5997万円

売上高155億円

代表 工藤健一

本社 兵庫県神戸市兵庫区出在家町2-2-26

-概要-

兵庫県神戸市に本社を置く書店会社。

2010年は書店売り上げランキングはあおい書店に続き18位である。

ジュンク堂書店とは同根の企業であるために、共存及び協力関係にある。

現在店舗展開している地域は

北海、宮城、栃木、群馬、千葉、岐阜、富山、兵庫、京都、大阪、奈良、岡山、福岡であり、地方にも進出している書店である。(しかしかつては、石川や佐賀、熊本にも店舗があった)

-特徴-

この書店では、漫画館、子ども館、絵本スタジオといった〇〇専門といった出店形式でも本屋を営んでおり、新しい書店のスタイルをつくっている。またジュンク堂書店との協力、共存のために出店場所を意識したり、ネット書店をジュンク堂書店のオンライン書店に一本化している特徴もある。

-物件募集-

現在は行っていない。



(図3)喜久屋書店

・くまざわ

-基本情報-

創立明治23年

資本金2億9990万円

売上高229億円(2010年)

代表 熊沢健

本社 東京都八王子市八日町1-11

-概要-

東京都八王子市に本社を置く書店会社。

2010年は書店売り上げランキングは14位である。

紀伊國屋書店と比べると国内では広く全国展開(195店)しており、未進出の地域は

岩手、石川、福井、鳥取、島根、徳島、高知と狭い。

くまざわはグループ経営の書店で、「くまざわ書店」=「いけだ書店」=「ACADEMIA」である。

書店の規模も大型で大きいものでは1000坪の広さを持つものもある。



(図4)くまざわ書店

-特徴-

代表は、「個人の知的及び文化的ニーズに応えることで社会貢献する」と述べていることから書籍を購入する消費者への意識が高い。そこは紀伊國屋とは違った特徴である。

くまざわは、現在も書店を新設し続けており販売範囲を広げている。

ネット販売より現地販売に重視を置いているのもくまざわの特徴である。

-物件募集-

現在は行っていない。

・三省堂書店

—基本情報—

創業明治14年

資本金1000万円

売上高276億円

代表 亀井忠雄

本社 東京都千代田区神田神保町1-1

—概要—

明治初期に古書店からスタートした書店会社。

2010年書店売上ランキングでは10位である。

主要都市(北海、埼玉、東京、千葉、神奈川、愛知、岐阜、京都、大阪、岡山)に出店しており、都市立地型書店と言える。紙の書籍としての本の重要性を強く訴える書店で、電子出版物と対立している面が見られるが、電子書籍の取り扱いも行っている。

出版関係以外にも、ソリューション事業、フランチャイズ事業、不動産事業にも力を入れている。

—特徴—

ただ本を売るだけではなく、自費出版の支援なども行っている。

また、サイエンスカフェといった自然科学の研究者をカフェに招いて参加者と話をするなどのイベントを行っており「知」の発信に積極的である。

—物件募集—

現在は行っていない。



(図5)三省堂書店

・三洋堂書店

—基本情報—

創業昭和34年

資本金1000万円

売上高279億円

代表 加藤和裕

本社 愛知県名古屋瑞穂区新開町18-22

—概要—

名古屋市に本社を置く書店である。

主要都市問わず様々な地域に展開しており現在、愛知、岐阜、三重、滋賀、奈良、京都、大阪、福井、長野、千葉、茨城、静岡にて出店している。2010年書店売上ランキングでは12位である。

—特徴—

書籍の販売のほかにも、文具や雑貨、映像、音楽、ゲームソフトの販売やレンタルを行っており、様々なサービスを行っているのが特徴。

—物件募集—

空き店舗・・・200坪以上の独立店舗。平屋または2階建て 駐車場は30台以上。

店舗用地・・・1000坪～1500坪で店舗建築可能地域。



(図6)三洋堂書店

・ジュンク堂書店

—基本情報—

設立昭和38年

資本金3985万円

売上高513億円(2012年)

代表 工藤恭孝

本社 神戸市中央区三宮町1-6-18



(図7)ジュンク堂書店

－概要－

神戸市に本社を置く、巨大な書店会社であり丸善の子会社でもある。
巨大書店であるがゆえに、ホームページの事業内容に於いても「専門書ならジュンク堂書店と言われるよう書店の販売を通して地域社会に貢献できる企業を目指す。」と述べており、他社への対抗意識と情報発信という社会貢献に積極的な姿勢を見せている。これらの意識はジュンク堂書店の書店にも表れており、大きい書店では2060坪の広さを持つ(梅田店、福岡店)。他の店舗でも1000坪を超える書店販売領域を持つものが多く、多くの都市で出店している。(鳥取には進出していない。)
因みに2010年の書店売上ランキングは4位である。

－特徴－

先でも述べたようにジュンク堂書店は情報発信という形で社会に積極的に貢献しようとしている。それを良く実感できるのが、座り読みスペース。購入前の本を堂々と読むことが可能なのだ。ジュンク堂書店がこのような行いをするのは、「図書館よりも図書館らしい店づくり」を進めているからだ。図書館は万人に平等な情報へのアクセスを可能にする場であり、本書店が図書館らしい店づくりを行うためには出版物をだれでも読めるということにしなければならない。ジュンク堂書店は立ち読みを認めることで、デジタルデバイドの解消に積極的に取り組んでいるといえる。

－物件募集－

現在は行っていない。

・精文館書店

－基本情報－

創業大正12年
資本金1億円
売上高193億円(2013年)
代表 大和田泰正
本社 愛知県豊橋市広小路1-6

－概要－

愛知県豊橋市に本社を置く書店。
2010年の書店売上ランキングは15位。
愛知県を中心に店舗を展開しており、愛知県のほかにも静岡、神奈川、千葉、埼玉に店舗を保有している。

－特徴－

レンタルチェーンのTSUTAYAと連携しており、大型複合店として展開。

－物件募集－

現在は行っていない。



(図8)精文館書店

・トップカルチャー

－基本情報－

設立昭和61年
資本金20億737万円
売上高285億円(2010年)
代表 清水秀雄
本社 新潟県新潟市西区小針4-9-1

－概要－

蔦屋書店やTSUTAYAでおなじみの会社。
新潟県に本社を置き、2010年の書店売上ランキングは三省堂書店の次の11位である。
主に書籍の販売や、CD・DVDなどのレンタル業務を行っている。
新潟県を中心として関東甲信越や宮城に出店している。

－特徴－

トップカルチャーは世界初の民営市民図書館「武雄市図書館」の指定管理者になったことで有名。図書館の役目と書店の役目を果たしていけるかが注目すべき点である。

－物件募集－

新潟、長野、神奈川、東京、千葉、群馬、埼玉に於いて物件募集しているが、他の地域の情報も募集している。
要件は土地であれば1000坪以上、建物であれば400坪以上で85台以上の駐車場が確保されているところ。



(図9)トップカルチャー

・丸善

－基本情報－

創業明治2年

資本金1億円

売上高478億円※単体(2012年)889億円(2010年)

代表 石井昭

本社 東京都港区海岸1-9-18

－概要－

日本の書店会社のベスト2を務める会社。

ジュンク堂書店の親会社で双方の売上を合計すれば紀伊國屋書店の売上を超す。

書店と言う立場から、知の育成・普及・環境づくりに関わり日本の教育・科学・文化の発展に貢献する姿勢を見せている。書店の経営以外に教育機関向けの事業、図書館向け事業などの展開を行っており、教育機関向けの事業では大学機関の学習支援及びICT活用整備の支援などを行い、図書館向けの事業では、委託された公共施設の図書館の業務を行っている。

このことから、デジタルデバイドの解消について積極的な姿勢が窺える。

－特徴－

巨大書店と言うこともあって、社会貢献を重視しており、教育現場や図書館の支援や業務に於いて万人の情報への公平なアクセスが実現する社会を目指して積極的に取り組んでいる。

－物件募集－

現在は行っていない。



(図 10)丸善(ジュンク堂)

・未来屋書店

－基本情報－

設立昭和60年

資本金1億円(イオン株式会社100%出資)

売上高507億円(2013年)

代表 羽牟秀幸

本社 千葉県千葉市美浜区中瀬1-6-NTT幕張ビル7階

－概要－

2010年の時点では売上高ランキングで7位であるが、その後かなり売り上げを伸ばしており、ジュンク堂書店の売り上げと同じくらいまで売上高を上昇させた書店。イオングループの中核企業であり、大抵の書店はイオンショッピングモール内にある。未来屋書店もジュンク堂書店と同じく座り読みスペースがあり、また子供用の椅子やテーブルもある。これは子供の活字離れを食い止めるためのもので、子供が活字に興味を持ってもらう為に、椅子やテーブルを設けている。

－特徴－

紙本をより多くの人に提供し、また環境にも配慮するために未来屋書店では本書店で買った本の売り払いが可能である。

売った本は、未来屋書店の古本販売店に並び、次に読む人が安く買えるという仕組み。

このような仕組みは間接的に多種多様な人に本を提供できるという利点があり情報格差を解決する手段にもなる。

－物件募集－

現在は行っていない。



(図 11)未来屋書店

・有隣堂

－基本情報－

創業明治42年

資本金2億6400万円

売上高500億円(2013年)

代表 松信裕

本社 神奈川県横浜市中区伊勢佐木町1-4-1

－概要－

横浜市に本社を置く巨大書店会社。

2010年書店売上ランキングは3位であるが、近年は未来屋書店の売り上げの方が高い。その理由として、神奈川、東京、千葉の3都県にしか進出していないことが挙げられる。



(図 12)有隣堂

書籍販売のほかにも、楽器、楽譜販売店や音楽教室を経営しており、文化活動に貢献している他、海水熱帯魚水槽のレンタルといった事業も展開している。

－特徴－

まず大型書店会社でありながら3都府のみ展開している首都圏集中型の出店方式であることが挙げられる。これは、本社から直轄し易いところに店舗を構えることで、より良い経営体制を作り消費者との距離を近づけ、自らの利益につなげる為の結果と考えられる。

また楽器販売店、音楽教室、カルチャーセンターの経営を行っている事から文化的事業に積極的であることも特徴である。

－物件募集－

現在は行っていない。

・リブロ

－基本情報－

設立昭和60年

資本金9000万円

売上高211億円(2013年)

代表 三浦正一

本社 東京都豊島区東池袋4-23-15第2キンズメンビル3・4階

－概要－

東京都豊島区に本社を置く書店。2010年の書店売上ランキングは13位。

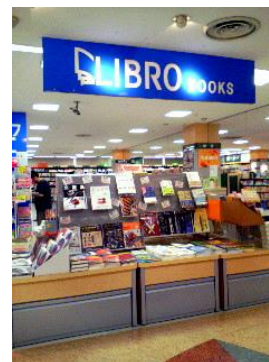
全国の広範囲にわたり書店を経営しており、東北、関東、関西、九州、沖縄と様々な都市に展開している。

－特徴－

一部の店舗では、カフェも一緒に経営しており、購入前の本を読みながらお茶をする事も出来る。

－物件募集－

現在は行っていない。



(図 13)リブロ

比較

ここでは各書店会社の比較を行う。

	設立	資本(億)	売上(億)	展開	デジデバ	文教	環境	カフェ	募集
あおい	S58	0.10	150	7	△	×	△	×	○
紀伊國	S21	0.36	1129	29	◎	◎	△	×	×
キクヤ	S38	0.59	155	13	△	○	△	×	×
くまざわ	M23	2.99	229	40	△	×	△	×	×
三省堂	M14	0.10	276	10	○	○	△	○	×
三洋堂	S34	0.10	279	12	△	×	△	×	○
ジュンク	S38	0.39	513	26	◎	×	△	×	×
精文館	T12	1.00	193	5	△	×	△	×	×
トップ	S61	20.07	285	8	○	○	△	○	○
丸善	M2	1.00	889	26	◎	◎	△	○	×
未来屋	S60	1.00	508	38	○	×	◎	○	×
有隣堂	M42	2.64	500	3	△	◎	○	×	×
リブロ	S60	0.90	211	17	△	×	△	○	×

※「展開」に於いて丸善とジュンク堂については双方を混合しているため数値が同じ。

※デジデバは情報格差の解消に向けた取り組みが出来ているか、文教は文教系の事業展開をしているか、環境は自然環境に配慮した経営が出来ているかを表している。

まとめ

日本の有名書店会社を13社挙げたが、電子書籍化やネット書店化が進む現在においても、

書店の新設を行いその規模を拡大する企業は多い。

物件募集を行っていたのは、13社中、3社であり、書店のない所に書店を構える姿勢は

情報格差の是正にも繋がるので評価できる。

また規模が大きい会社ほど、文教活動や事業を積極的に行っており、デジタルデバイドの解消や日本人の文化教養の育成に貢献しているといえる。

参考資料・文献

- ・あおい書店 ホームページ
- ・紀伊國屋書店 ホームページ
- ・キクヤ図書販売 ホームページ
- ・くまざわ ホームページ
- ・三省堂書店 ホームページ
- ・三洋堂書店 ホームページ
- ・ジュンク堂書店 ホームページ
- ・精文館書店 ホームページ
- ・トップカルチャー ホームページ
- ・丸善 ホームページ
- ・未来屋書店 ホームページ
- ・有隣堂 ホームページ
- ・リブロ ホームページ
- ・wikipedia

終章、鳥取駅周辺の書店誘致について

目的

ここでは、これまで集めた情報やレポートを参考にしながら鳥取駅周辺の書店誘致の意義や、書店誘致による鳥取の未来を模索してゆく。

アウトライン

- ・必要か不必要か
- ・書店の立地場所
- ・相応の書店
- ・誘致までの道程
- ・未来
- ・まとめ

必要か不必要か

ここでは、第一章から第六章の研究及び仕上げたレポートの結果から鳥取駅周辺に書店(大型)を誘致すべきか否かを論じていく。

まず、第一章についてであるが、この章では鳥取市に書店を欲する人々のメッセージを取り上げて記録してきた。インターネットでの調査や、富井が通う大学における聞き取り調査の結果から、鳥取駅周辺は書店がなく不便だという声が挙げられ、また満足できる書店が欲しいとの要望が相次いだことから、駅周辺の書店誘致の必要性を感じた。

第二章では鳥取県が現在、地域活性化の為に尽力している「まんが王国鳥取」の事業について調査した。

その結果、「まんが王国鳥取」事業は上手く進んでいない事が判明した。また「まんが王国」であるのに、その漫画を販売する書店が鳥取市には少ない。鳥取駅周辺に書店を誘致し「まんが王国」としての機能を果たすべきである。

第三章では、書店とネット書店の比較を行った。現在のネット化社会の流れに沿うように書店会社も書店をインターネット上に移転する事が盛んになって来た。しかし鳥取の様なインターネット普及率が低い地域や高齢化地域では形ある書店は必要であると結論付け、また書店はネット書店には実現不可能な未知の出版物の出会いやコミュニティの場を創出できるという点から、地域住民の新たな教養や知識の育成の為に形ある書店の存在はこの先も重要である。

第四章では、図書館と書店を比較した。図書館は情報の提供機関であるのに対し、書店は情報の販売所だ。それぞれ、膨大な量の情報を取り扱っているが、図書館は必要性の高い情報を広い年代に渡って保存しているのだから、新しい情報を集中的に保存、提供する事は出来ない。それを補うように書店が存在し常に新しい情報を販売といった形で提供しているのだから、どちらの存在も必須だ。鳥取駅周辺にも図書館はあるが書店は小規模なものが多く両者のつり合いが取れていないので大型書店が必要である。

第五章では書店と商店街の関係や、鳥取駅周辺の書店と他の都市の駅周辺の書店を比較した。現在、鳥取駅周辺の商店街は他の都市の商店街と同じく活気が失われつつある。またそこにある書店も小規模で、置いてある出版物で若者向けが少ないといった点から、若者文化の発展の為に新書店の誘致が必要だと感じた。また他の都市の駅周辺と比べても鳥取駅周辺は十分な情報発信の地がない事から、大型書店の誘致を急ぐべきだと実感した。

第六章ではデジタルデバイドについて調査した。情報格差が発生する原因として、インターネット普及率、平均所得、年齢、地理的要因の4つが挙げられるが、鳥取県はこの4つから情報弱者になり易い県である事が判明した。平均所得が全国的に見ても低い鳥取県は、情報を手に入れる手段としてのインターネットの普及率も低い。それは単なる所得格差だけでなく高齢化も影響している。また鳥取県は大都市から遠く、情報が入って来にくいという事からも情報に弱い地域になっているのである。

そんな鳥取県鳥取市に於いて、致命的なことはその情報を手に入れられる場所が少ないという事だ。地理的要因もあって、書店に於ける出版物も新刊は少ない。またその販売する場所も小中規模である。情報格差が進行している現在の日本で鳥取市はさらに情報弱者となりつつあるのだ。それを食い止める為に大型書店を誘致し都市部と同じ情報入手できる環境を作るべきである。

第一章から第六章まで様々な視点から鳥取駅周辺に書店を誘致する事は本当に必要であるのかを探ってきたがどの章に於いても、誘致の必要性を強く感じる情報が集まった。鳥取駅周辺には情報格差を是正する事に尽力している大型書店を誘致する事が鳥取市民の文化、教養活動及び生活の為に必要であると結論付ける。

書店の立地場所

ここでは、書店を誘致するに当たってどの場所が適当かを述べてゆく。

これまで、鳥取駅に於いて徒歩圏内で書店を出店できそうな所を探しに「まちあるき」を複数回行ったが、商店街や周辺の商業施設で出店出来そうな空間はなく、大型書店を誘致できそうな所は鳥取駅内の一カ所に限定された。その場所とは鳥取駅構内の商業施設であるシャミネの二階部分である。現在、鳥取駅のシャミネの二階部分は空きスペースになっており、閉鎖されているため一般人は立ち入ることが不可能である。しかし、この空きスペースである二階部分も以前は商業施設としての役割を果たしており、2014年に行われた改装工事でその役目を終えたのだ。



(図1)鳥取駅のシャミネ



(図2)鳥取駅シャミネの入口付近

富井は鳥取駅のシャミネ二階の空きスペースの見学をシャミネに願い出たが、現在は工事中で工事関係者しか立ち入る事が出来ないとの事であった。

現在、鳥取駅は国土交通省の命令で耐震補強工事を行っており、シャミネの二階部分もその対象であるので柱を増設するなどの補強を行っている。5月30日現在、シャミネの二階部分は全ての床を取り外し補強の為の柱を建てている。

また、耐震補強後に於いても商業施設の出店は可能であるとの事であった。

そして聞き取り調査(富井とシャミネ社員の藤原氏)で判明したことについては、現在シャミネ二階部分の商業施設としての開発計画はなく、また今後も自主的に開発する計画はないとの事であった。しかしながら大手企業などによるシャミネ2階部分の開発及び出店を要請された場合、計画及び出店店舗の内容によってはそれを受け入れるという事を述べていた。

シャミネ基本情報

	広さ	駐車場	空きテナント	住所
シャミネ 一階部分	3100㎡(937坪)	160台(鳥取駅南口)	×	〒680-0835
シャミネ 二階部分(空)	2400㎡(726坪)		◎(補強中)	鳥取市東品治町111-1

猶、シャミネ鳥取の電話番号は0857-27-6511、ファクシミリは0857-22-5802である。

相応の書店

ここでは、書店を誘致するに当たりどの書店会社の書店が「鳥取」に適しているかを、これまでのレポートを参照しながら、その候補を絞っていく。

・条件

以下の3つの条件を達成できる書店を鳥取駅に誘致したい。

- 1、情報格差の是正に積極的な書店会社であること。
- 2、鳥取駅周辺の地域活性化に貢献できる書店であること。
- 3、多種多様な人々に答えられる書店販売を行える書店であること。

・推薦

上記した条件を満たす書店会社は以下の三社である。(敬称略)

- イ、紀伊國屋書店
- ロ、ジュンク堂書店
- ハ、丸善

以上の書店会社は情報格差の是正に積極的であり、またメセナといったCSRを重視した活動を行っていること、そして書店としての経営の知識や経験が豊富であることから推薦した。

・適合

三社のうち、鳥取駅に最も誘致すべき書店は、以下の書店会社である。(敬称略)

☆ジュンク堂書店

ジュンク堂書店を鳥取駅に誘致すべき理由は、3つある。

まず一つ目の理由は、本社との距離が近いことが挙げられる。他の書店の本社は東京都にあり、誘致したとしても書店は目の届きにくい位置にあるため行き届いた管理が難しい。しかしジュンク堂は本社が兵庫県の神戸市という事もあり、鳥取とは地理的に近い位置にあるので、鳥取に出店しても状況が把握しやすく管理しやすいからだ。

次に、二つ目の理由としてジュンク堂は専門書に自信があり、誘致すれば多種多様な人の期待に答えられる書店となるからだ。現在、専門書に強い書店は鳥取市には少ないが、その専門書を必要としている市民は多く、今後も増えていくと考えられる。平成二十五年の春、鳥取県と岡山県を繋ぐ中国横断自動車道が開通し、山陰と岡山、兵庫を繋ぐ直通高速道路といったインフラが整備された。この事によって鳥取県は一層、企業誘致に力を注ぎ、多くの企業が鳥取への進出を考えたり行ったりしている。その様な中、需要が増すのが専門書である。また、それだけではない。近年、鳥取は教育にも力を入れており、大学や専門学校と行った教育機関を新たに作っている。そこに於いても多くの学生が参考書や専門書を必要とする状況がある。専門書に強い書店を開店させることによって、それらの人々の要望に答え、また多くの市民の知識、教養を深める場としての役割が期待できる。

最後に三つ目の理由として、ジュンク堂は情報格差の是正に積極的であるからだ。それが分かる理由として、ジュンク堂は図書館よりも図書館らしい店づくりを行っているからだ。図書館の役割は万人に情報への平等なアクセスを実現させる場である。ジュンク堂に於いても図書館の様な多くの人が平等に情報にアクセスできるような店づくりを行っていることは情報弱者である鳥取に於いて魅力的だ。現在重要な鳥取の課題として鳥取と都市部の情報格差について挙げられるが、その解決の為にジュンク堂を誘致し、格差是正に取り組むべきである。

以上三つの理由から鳥取駅にジュンク堂書店を誘致する事が最も望ましいと判断する。

誘致までの道程

ここでは、大型書店の誘致までの道程を箇条書きで述べてゆく。

道程

1. 本書の作成。
2. 本書終章の相応の書店で適合と判断した書店会社への誘致の願書作成と発送。
3. 書店会社への説明。
4. 出店候補地との対話、契約。
5. 出店候補地に誘致。

未来

鳥取駅周辺に書店を誘致した結果、どのような効果が生まれるか、またどのような課題が生じるかを論じてゆく。

鳥取駅周辺に書店を誘致した結果、多種多様な出版物の情報によって都市部との情報格差が是正され、また、大型書店といった情報発信の中心地が出来ることによって、新たなコミュニティが生まれることが期待できる。しかし一方で、大型書店が出来る事によって周辺の小中書店の経営を圧迫する可能性があるため、大型書店と小中書店の双方の頂点を活かし互いに協力する事が大切である。

まとめ

- ・鳥取駅周辺には新しい大型書店が必要である。
- ・書店を誘致する場所は、鳥取駅のシャミネの二階部分である。
- ・誘致すべき書店は「ジュンク堂書店」である。

参考資料・文献

- ・鳥取県 ホームページ
- ・シャミネ ホームページ

おわりに

まず、本稿の執筆に関して協力して下さった方々に厚く御礼申し上げます。(ご協力して下さった方々については下に記す。) 今回の大型書店誘致計画総合レポートでは鳥取駅周辺に書店の誘致の必要性や重要性を綴ったものであるが、現在の日本では都市地方間の情報格差は顕著に拡大しており、その格差の是正は最重要課題であり、このレポートが他の地方に於いても書店誘致という形で格差是正と言った時に参考になれば、嬉しい限りである。

しかし、ただ書店を誘致すればそれで終わりという訳ではない。誘致したその地に於いてどう書店は情報発信していくのが最適か、また地域とどう関わるかを考慮しなければならない。今後、書店誘致が実現することになれば引き続き、情報格差の是正の方法や書店と周辺の商業地域との良好な関係を築き上げるために研究を続けるだろう。その様な時、再び多くの市民の方に協力を求めるだろう。その時は宜しく願いたい。

2014年5月30日金曜日
「未来をぼくらの手で」グループリーダー
富井 篤弥

執筆に際し協力していただいた方々

- ・鳥取環境大学学生
- ・智頭街道商店街振興組合 中村理事長
- ・今井書店 武田氏
- ・旧山村交文堂書店
- ・花房書店
- ・横山書店
- ・シャミネ鳥取 藤原氏
- ・鳥取市民